

論文解説

「Objective impacts of tadalafil on storage and voiding function in male patients with benign prostatic hyperplasia : 1-year outcomes from a prospective urodynamic study」(World J Urol. 2019 ; 37 : 867-72.)

名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学

松川 宜久, 後藤 百万



論文の内容

1. 目的

下部尿路症状を有する前立腺肥大症 (lower urinary tract symptoms/benign prostatic hyperplasia ; LUTS/BPH) 患者に対するタダラフィルの蓄尿・排尿機能に関する効果を, 尿流動態検査を用いて, 前向き研究により1年にわたって検討した。

2. 対象と方法

名古屋大学医学部附属病院にLUTSを主訴に来院した50歳以上の男性患者105名を対象に, タダラフィル5mg/dayを1年間投与し, 投与前, 投与3カ月, 投与1年で自覚症状ならびに尿流動態検査を行って他覚所見の変化を検討した。試験シェーマを図1に示す。

除外基準

- ・ α_1 遮断薬, 抗コリン薬, 5α 還元酵素阻害薬, 抗うつ薬, 抗不安薬, 性ホルモン剤, ニトログリセリン, 亜硝酸アミルまたは硝酸イソソルビドを服用していた患者
- ・ 神経因性膀胱機能障害, 膀胱結石または尿路感染症を有する患者
- ・ 重度の心疾患, 腎障害 (Scr ≥ 2 mg/dL), 肝機能障害 (GOT・GTPが基準値の2倍以上) を有する患者
- ・ 前立腺癌の患者 (PSA > 4 ng/mLの患者に前立腺生検を実施し診断)

評価項目

① 自覚症状評価項目

国際前立腺症状スコア (international prostate symptom score ; IPSS), 過活動膀胱症状スコア (overactive bladder symptom score ; OABSS)

Yoshihisa Matsukawa (講師), Momokazu Gotoh (教授)